



SAFE COMMUNITY TOWADA



労働の安全対策部会

発表者

令和6年8月6日（火）
労働の安全対策部会
部会長 野田 誠二

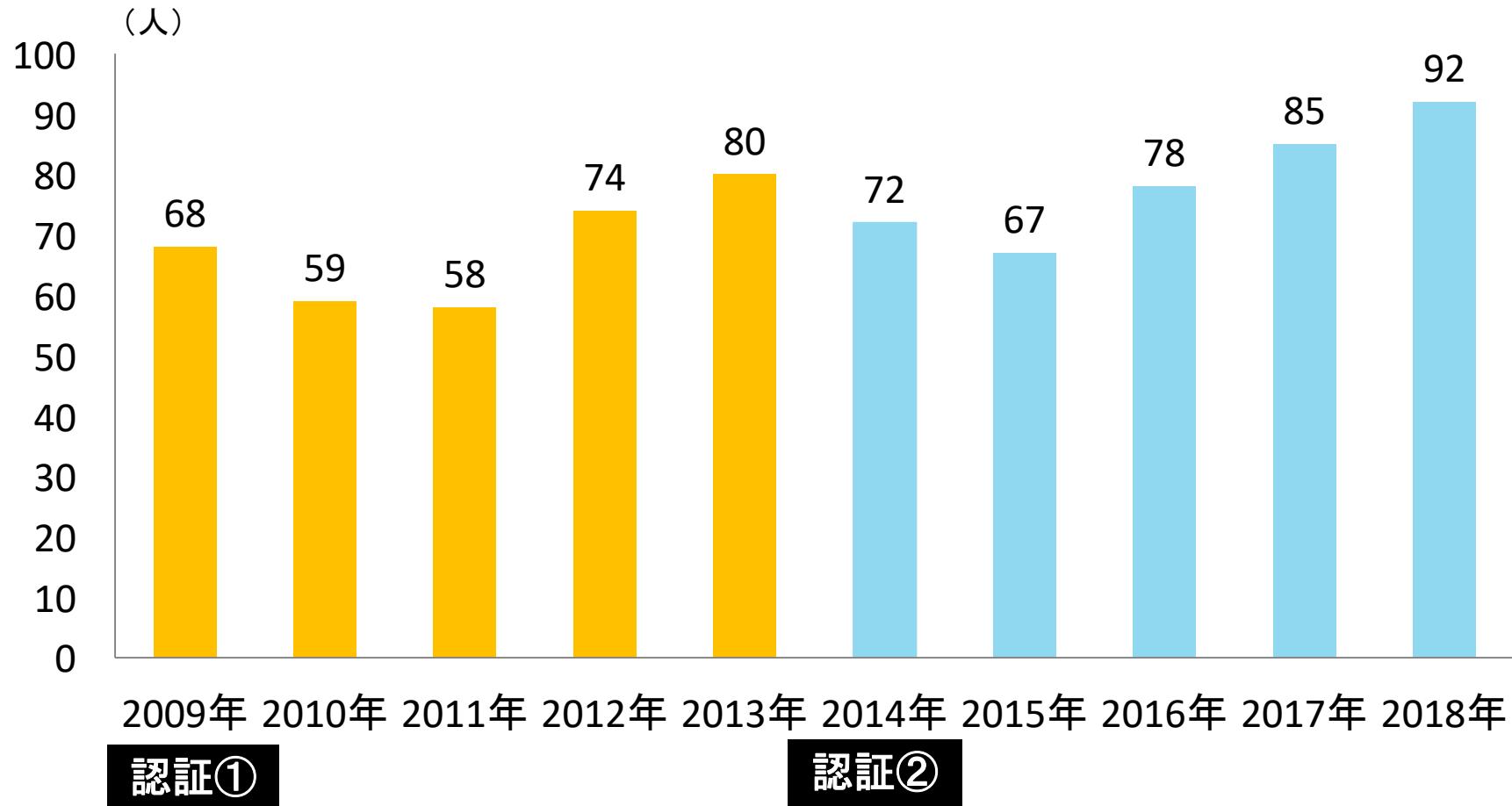
労働の安全対策部会員

No.	役職	構成	区分
1	部会長	十和田市建設業協会	関係機関等
2	副部会長	上北労働基準協会	関係機関等
3	部会員	公益社団法人十和田青年会議所	関係機関等
4	部会員	十和田商工会議所	関係機関等
5	部会員	十和田おいらせ農業協同組合	関係機関等
6	部会員	十和田労働基準監督署	行政関係
7	部会員	十和田市商工観光課	行政関係
8	部会員	十和田市農林畜産課	行政関係

部会設置の背景①

■労働災害発生件数が上昇傾向

図表1 十和田市内での休業4日以上の労働災害発生状況

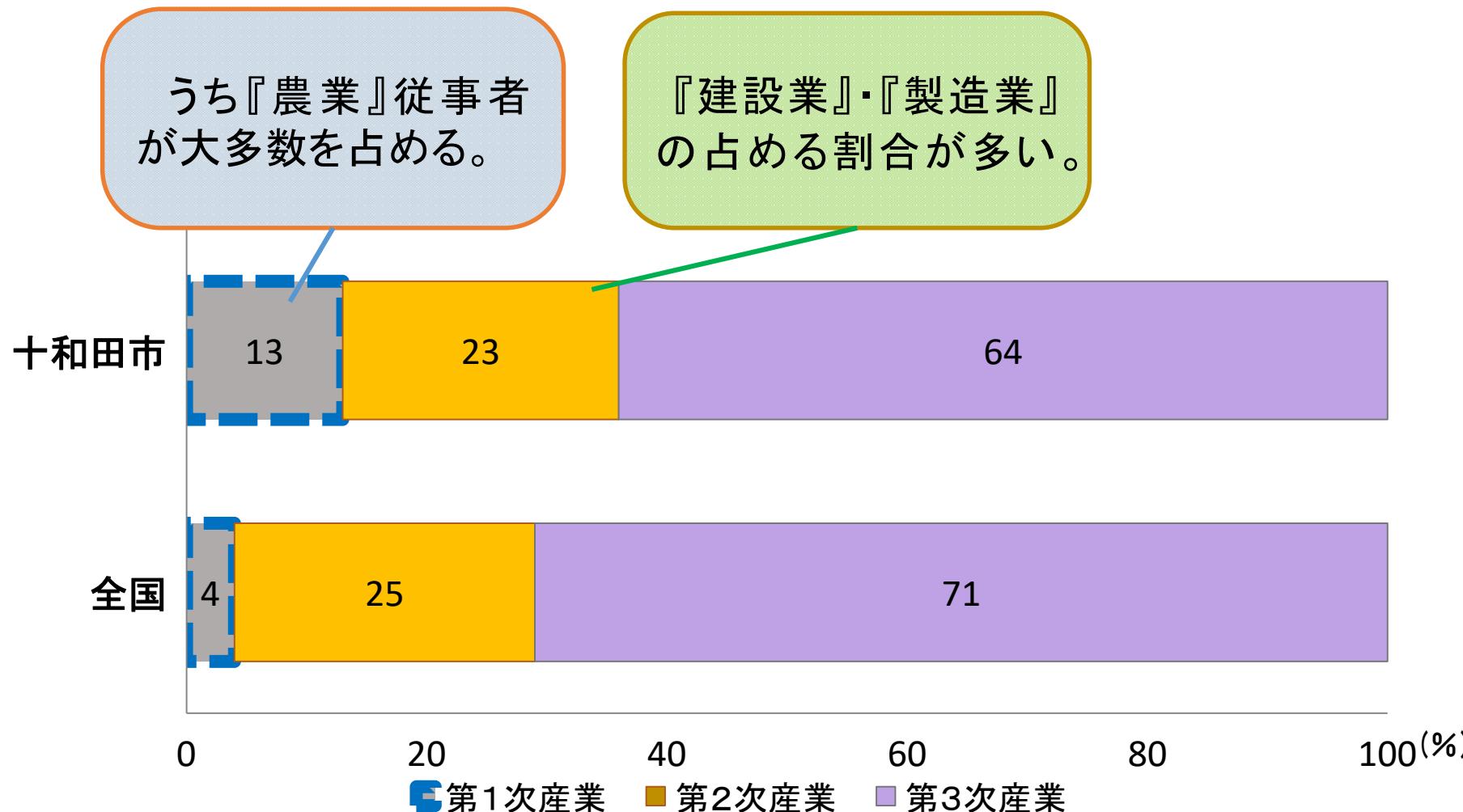


出典:十和田労働基準監督署 労働者死傷病報告(休業4日以上)

部会設置の背景②

■全国的に見て十和田市は第一次産業への就業率が高い

図表2 産業別就業者の割合



出典:国勢調査(2015年)

部会設置の背景③

■日本の農業の現状

日本は国土が狭いため、諸外国と比較すると、農業は狭い農地で小規模に行われている。

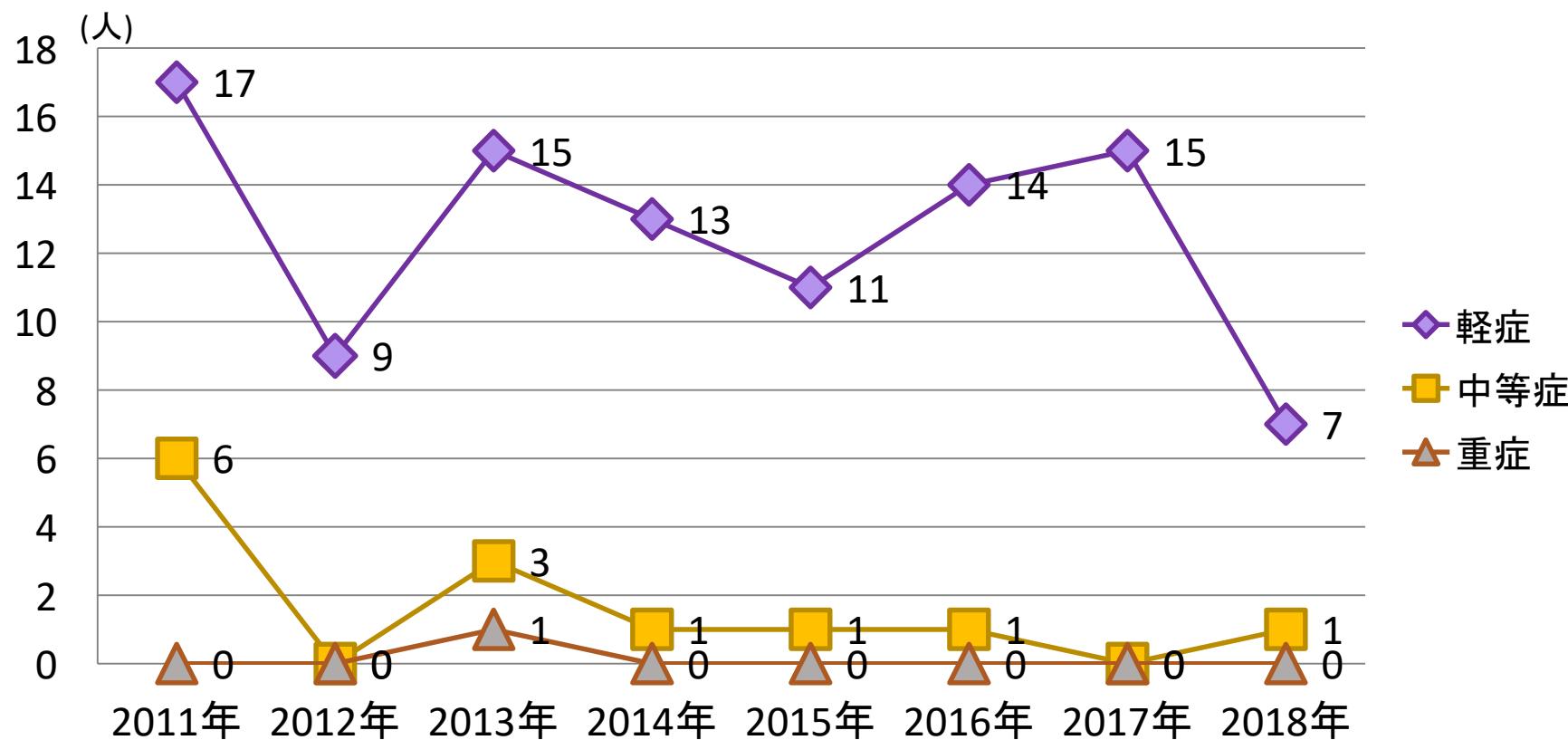
小規模ゆえに、安全対策は個人まかせとなっている。



部会設置の背景④

■農作業時における受傷は毎年発生している

図表3 農作業中事故病傷程度経年比較

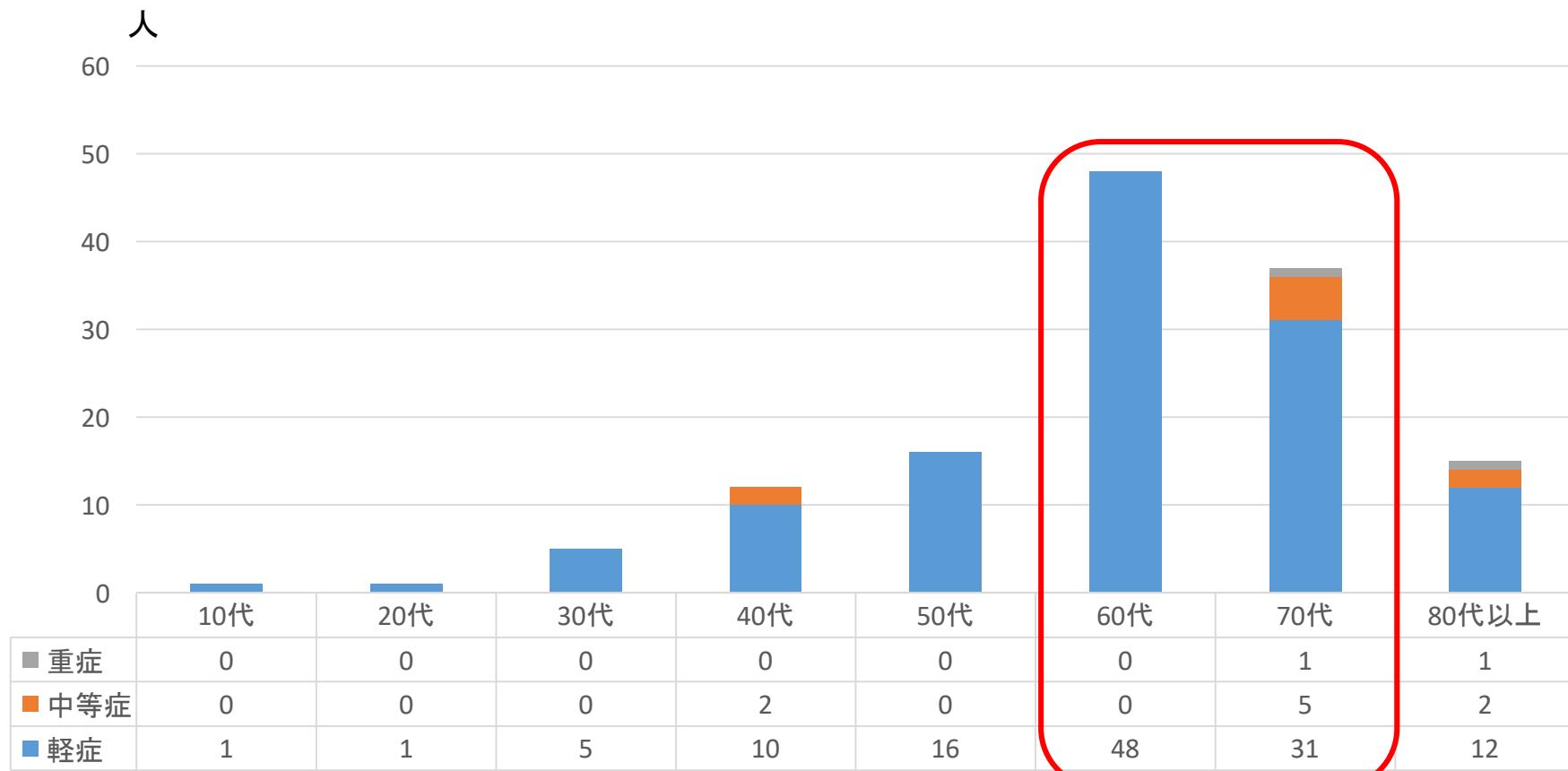


出典：救急搬送及び中央病院受診データ

データから見る課題①

■農作業の受傷者は60代が最も多く、中等症では70代が多い

図表4 農作業による年代別の傷病程度



出典：救急搬送及び中央病院受診データ(2014年～2023年)

データから見る課題②

■農作業中の受傷は機械による受傷が約4割

図表5 農作業中の中等傷以上の受傷のうち機械による割合(n=11)



出典:救急搬送及び中央病院受診データ(2014年～2023年)

図表6 機械による受傷の内訳

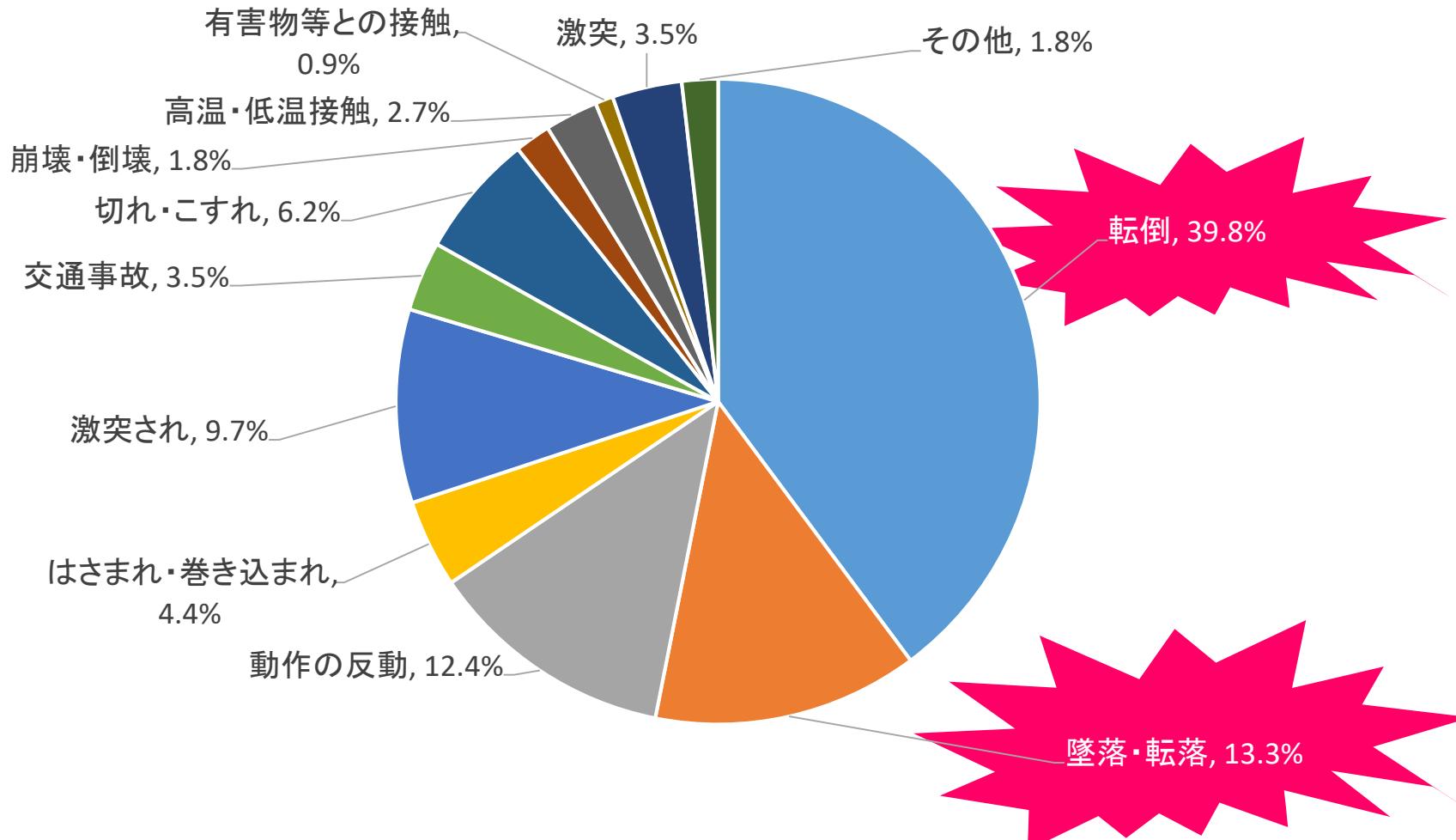
受傷の経緯	傷病名	事故概要
挟む、加圧	右環指屈筋腱断裂	コンバインに右手を巻き込まれた
挟む、加圧	右中指開放骨折	田植え機に両手を挟む
切る、刺す	右大腿損傷	丸ノコで薪を切っていて、右太ももを切った
切る、刺す	左足母趾切断	トラクターのバケットが落ちてきて左足親指を切断
転落	右座骨骨折	トラクターから転落した
切る、刺す	右上腕切断	芝刈り機に腕を巻き込まれた

出典:救急搬送及び中央病院受診データ(2014年～2023年)

データから見る課題③

■転倒することで受傷に至るケースが最も多い

図表7 事故の型別労働災害発生状況



課題と取組

課題	取組
<p>①農作業中によるけがは60歳以上に多い。(図表4) 中等症以上の受傷は農機具による割合が大きい。(図表5、6)</p>	<p>①農作業事故防止プログラム</p>
<p>②製造業、建設業等の様々な職種で労働災害が発生しており、転倒・転落を原因とするものが多い。(図表7)</p>	<p>②職場内の転倒・転落事故予防プログラム</p>

課題①に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・県 レベル	市レベル	地域レベル
農作業中によるけがは60歳以上に多い。	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none">・全国農作業安全確認運動・青森県農作業安全運動推進計画	<ul style="list-style-type: none">・農作業安全広報	<ul style="list-style-type: none">・農機具利用による転倒・転落事故予防安全対策協議会・若手育成塾・農作業安全広報
	規則・罰則			<p style="background-color: #e0c0ff; padding: 10px;">対策部会の関わり 農作業事故防止講習 周知活動とアンケート調査</p>
	環境整備			

課題②に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国 レベル	県レベル	地域・市レベル
製造業、建設業等の様々な職種で労働災害が発生しており、転倒・転落を原因とするものが多い。	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none">・労働災害防止推進計画・STOP転倒災害プロジェクト	<ul style="list-style-type: none">・労働災害防止推進計画・STOP転倒災害プロジェクト・ゼロ災3か月運動・冬期労働災害防止運動・青森県産業安全衛生大会の実施	<ul style="list-style-type: none">・労働災害防止推進計画・STOP転倒災害プロジェクト・ゼロ災3か月運動・冬期労働災害防止運動・上十三産業安全衛生大会の実施
	規則・罰則	<ul style="list-style-type: none">・労働安全衛生法		
	環境整備			<ul style="list-style-type: none">・各事業所において安全対策実施

対策部会の関わり
産業安全衛生大会等での
周知啓発

レベル別の対策の事例①

■課題に対するレベル別の対策事例

課題	農作業中によるけがは60歳以上に多い。
対策事例	<p>◆農作業の安全対策広報①</p> <p>市では、各種事業にかかる送付文書に農作業事故防止のチラシを同封し、農業用機械の取り扱いへの注意を呼びかけています。</p> <div data-bbox="1171 518 1728 1310"><p>農作業事故に気を付けましょう！</p><p>先般、十和田市内において、農業用機械に巻き込まれる重大事故が発生しました。農業用機械の取り扱いには十分に注意しましょう。</p><p>農業用機械で作業するときは・・・</p><p>○作業前には ・事前に段差や傾斜など危険な箇所がないか確認しましょう！ ・一人で作業をする場合は、作業場所や帰宅時間を身近な人に伝えておきましょう！</p><p>○作業中には ・点検や休憩を取る時には、エンジンが止まっていることを確認しましょう！ ・シートベルト・ヘルメットを着用しましょう！ ・段差や傾斜に気を付けて運転しましょう！</p><p>○作業後には ・機械のエンジンが確実に止まっていることを確認しましょう！ ・ブレーキの連結ロック忘れないか確認しましょう！</p></div>

レベル別の対策の事例②

■課題に対するレベル別の対策事例

課題

農作業中によるけがは60歳以上に多い。

◆農作業の安全対策広報②

JA十和田おいらせでは、十和田市内の希望する農家約700戸に農作業に役立つ情報や安全対策に関するFAXを配信し、農作業の安全に関する、周知啓発を行っている。

対策事例



プログラムの実施状況

	2019年 (認証③)	2020年	2021年	2022年	2023年
①農作業事故防止 プログラム				継 続	→
②職場内の転倒・転 落事故予防プログラ ム		農作業事故防 止講習等での 周知啓発		継 続	→

農作業事故防止プログラム

課題	農作業時のがが発生している		
目標	農機具による事故防止を図る		
内容等	農作業時の安全対策や農機具による事故を予防するために農業機械の安全操作技術講習会の周知や農業従事者への注意喚起を行う		
	【財源】	JA	
	【対象】	農業従事者	
	【活動】	既存の「農作業機械の安全な使い方現地講習」を活用	
	【人材】	JA、農機具業者、県、市役所	
(短期) 認識や知識の変化	【指標】 応急処置等の知識を身につけている人の割合		【測定】 農作業安全確認アンケート
(中期) 態度や行動の変化	【指標】 ・作業前の安全対策を行っている人の割合 ・農業機械の安全対策を行っている人の割合		
(長期) 状態や状況の変化	【指標】 農場、農地での受傷者数		【測定】 救急搬送及び中央病院受診データ

プログラムの活動内容①

農作業事故VR体験会の実施

農業者の農作業事故はその後の人生に大きな影響を与えててしまうことから、これを防止するために動画による啓発を行う。

JA十和田おいらせ野菜振興会の総会に合わせて開催

参加者は専用の機器を頭部に装着し、タブレットを操作しVR映像を再生。



プログラムの活動内容②

農作業前の服装や農機具使用による事故予防を呼びかける

区分	農機具等	講習内容
—	トラクター	ほ場出入りの横転
長芋・ごぼう	掘り取り機	足元の崩れ、巻き込まれ
にんにく	収穫機	巻き込まれ、機械の横転
ねぎ	皮むき機	根、葉切断部による手、指の切断

図表8 農作業機械の安全な使い方現地講習の開催状況

年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017 ～ 2018	2019	2020 ～ 2021	2022
現地講習会 参加者	3回 95人	1回 90人	1回 46人	2回 105 人	2回 69人	データ 無し	620 人	35人	開催 なし	1回 103人	開催 なし	1回 100人

プログラムの活動評価①

■農作業前の安全対策アンケート結果(短期・中期)

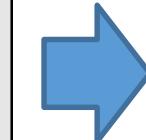
区分	2018年 (n=146)	2020年 (n=255)	2022年 (n=189)
(短期)事故に備え、 応急処置の知識を身 についている人	19.2%	35.7%	37.6%
(中期)作業内容・場 所を家族などに伝え ずに作業にあたった ことのある人	46.6%	47.1%	31.2%
(中期)携帯電話を持 たずに作業に出かけ たことのある人	60.3%	37.7%	12.7%



プログラムの活動評価②

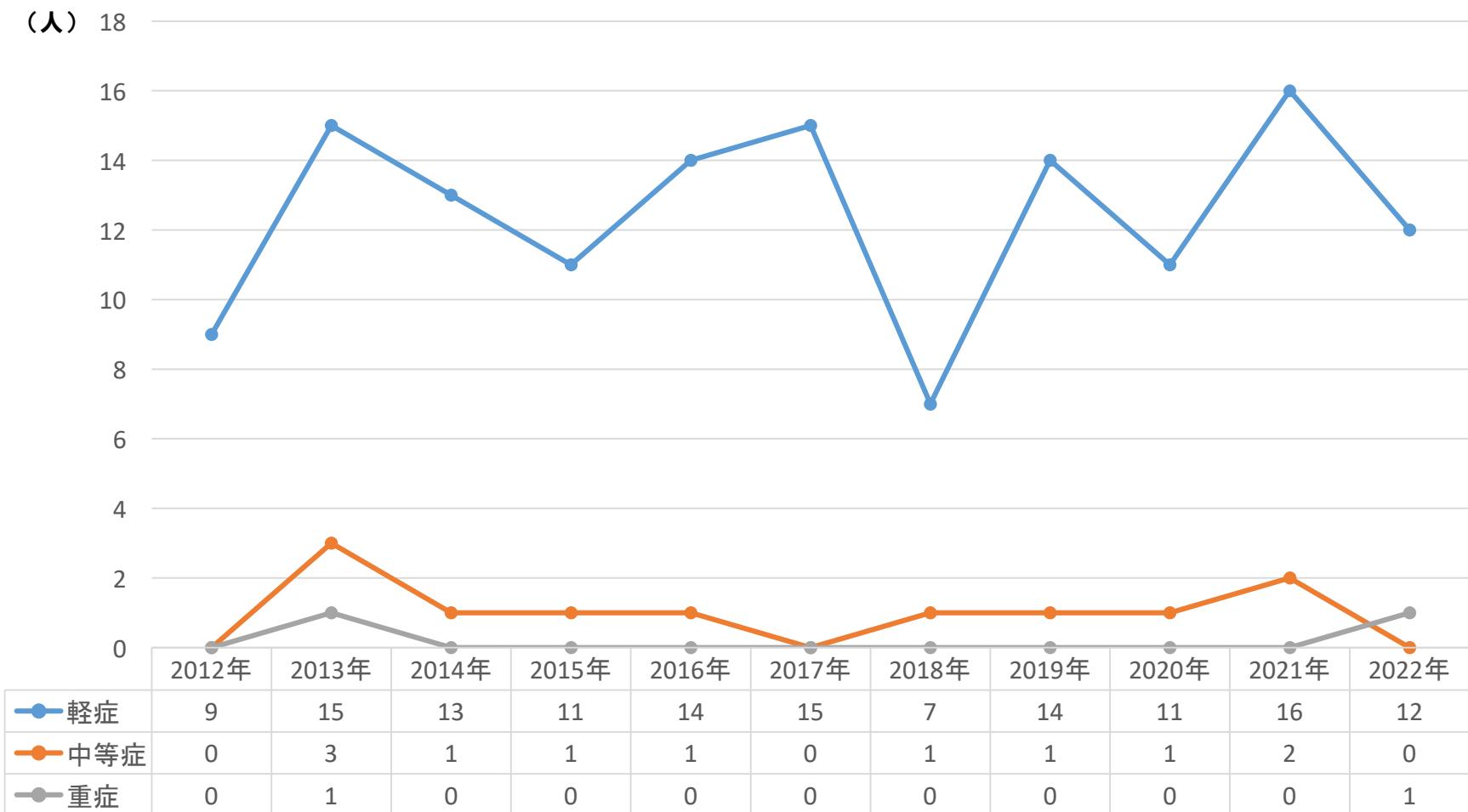
■農業機械の安全対策アンケート結果(中期)

区分	2018年 (n=146)	2020年 (n=255)	2022年 (n=189)
(中期)機械、器具の安全装置や防護バーの装着をせずに作業したことがある人	34.9%	27.5%	47.6%
(中期)機械のエンジンを止めずに機械から離れたり機械のつまりを取り除くなどの作業をしたことのある人	32.2%	32.9%	36.0%



プログラムの活動評価③

■図表9 農作業中事故種別傷病程度データ経年比較（長期）



出典：救急搬送及び中央病院受診データ

転倒・転落事故予防プログラム

課題	労働災害の主な受傷原因は転倒、転落となっている	
目標	労働災害による受傷者数を減らす	
内容等	労働災害の主な受傷原因として転倒、転落が多いことを周知する	
	【財源】	上北労働基準協会
	【対象】	労働者
	【活動】	安全衛生大会を活用
	【人材】	上北労働基準協会、労働基準監督署
(短期) 認識や知識の変化	【指標】 転倒・転落による予防対策を行っている事業者の割合	【測定】 事業者へのアンケート
(中期) 態度や行動の変化		
(長期) 状態や状況の変化	【指標】 労働災害の発生件数	【測定】 労働者死傷病報告

取組状況

上北労働基準協会が主催する、様々な職種が参加する産業安全衛生大会で、労働災害の発生状況等について周知を図っている。

特に受傷原因の多い転倒、転落事故予防に関してはパンフレット等を配布し、呼びかけている。

【産業安全衛生大会参加者数】



年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 ～ 2021	2022	2023
参加人数(人)	600	650	650	600	700	650	700	800	600	500	中止	350	400

出典：上北労働基準協会調べ

プログラムの活動内容①

冬季に特に多い労働災害や転倒予防の啓もう活動のパンフレット

冬期特有の労働災害を防止しましょう！

～令和4年度冬期労働災害防止運動～

積雪寒冷地である青森県内においては、冬期における降雪、低温、強い季節風等の冬期特有の気象条件の影響を受け、積雪・凍結・寒冷に起因した転倒、墜落、交通事故等の労働災害（以下「冬期労働災害」という。）が多発しており、大雪であった昨冬（11月～3月）における労働災害死傷者数（休業4日以上）のうち冬期労働災害によるものは、令和3年度は316人で前年度と比較して105人（49.8%）の大幅な増加となり、年間の労働災害発生件数を底上げしている状況にあります。

このため、当局では、冬期間のうちに冬期労働災害が多発する12月1日から翌年2月28日までの3か月間にについて、労働災害防止団体、事業者団体等と連携し、事業場における自主的な安全衛生管理活動の一層の推進を図り、本年度の冬期労働災害の減少を目指して「令和4年度冬期労働災害防止運動」を実施することいたしました。

重点目標：転倒、墜落及び交通事故による冬期労働災害の減少

実施期間：令和4年12月1日から令和5年2月28日までの3か月間

（準備期間：令和4年11月1日～令和4年11月30日）

事業場の皆様方におかれましては、冬期労働災害防止対策に積極的に取り組んでいただきますようお願いいたします。

なお、本年度の本運動については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に十分に留意するようお願いいたします。

詳細は、青森労働局ホームページに掲載しています。

職場での転倒にご注意ください！

転倒予防のために適切な「靴」を選びましょう

サイズ

靴と足はフィットしていますか？

足に合った靴は疲労の軽減、事故の防止につながります。



屈曲性

親指から小指の付け根を適度に曲げられますか？



重量バランス

靴の前後の重さのバランスはどうていますか？

靴の重量がつま先部に偏っていると、歩行時につま先部が上がりにくく、つまずきやすくなります。



つま先部の高さ

つま先から床面まで一定の高さがありますか？



靴底の減り具合

靴底がすり減っていますか？

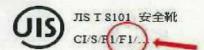
靴底の減りが大きい靴は、滑りやすくなります。



耐滑性の有無

靴の滑りにくさを確認していますか？

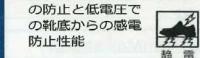
耐滑性を有する靴は、以下の箇所で確認できます。



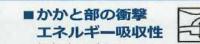
その他の性能

■ 静電気帯電防止性

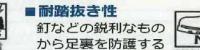
静電気帯電による放電着火の防止と低電圧での靴底からの感電防止性能



静電



かかと部の衝撃エネルギー吸収性
かかとのクッション性、衝撃吸収性に関係し、かかと部の疲労防止性能



耐踏抜き性
釘などの锐利なものから足裏を防護する性能



STOP! 転倒災害プロジェクト

厚生労働省と労働災害防止団体は、労働災害のうち最も件数が多い「転倒災害」を減少させるため、「STOP! 転倒災害プロジェクト」を推進しています。

STOP! 転倒

検索



プログラムの活動内容②

はしごや脚立からの墜落・転落災害防止や職場での転倒等の予防パンフレット

小さなことからコツコツと…
職場での転倒・腰痛予防に努めましょう！

滑りの予防ポイント

水や油で濡れた床、サイズが合っていないなつたり靴底がすり減っていたりする靴などは、転倒の原因になります。

- 床の清掃をこまめに行い、水や油などは取り除くようにしましょう。
- 滑りやすい場所には、注意を促す標識をつけましょう。
- 転倒予防には靴選びも大切です。足のサイズにきちんと合わせて、靴底が滑りにくいものを選びましょう。また、靴底が大きくすり減ってきたら、すぐに買い換えましょう。

踏み外しの予防ポイント

照明が暗い、大きな荷物を抱えているなど、足元の見えづらい状態は階段の踏み外しにつながります。

- 階段付近は十分な明るさを確保し、足元が見える状態で昇り降りしましょう。
- 階段には物を放置せず、日ごろから整理・整頓を行いましょう。

つまづきの予防ポイント

歩きスマホや荷物の放置などは、つまづいて転倒する危険性があります。

- スマホなどを見ながら歩かず、足元が見える状態で歩きましょう。
- 床の段差は、スロープで解消する、トラテープで段差をわかりやすくする、注意喚起の標識を掲示するなどの対策を行いましょう。
- 荷物は、通路、出入口などに放置せず、日ごろから整理・整頓を行いましょう。

腰痛の予防ポイント

重い荷物の持ち上げなど、腰に大きな負担のかかる作業は非常に危険です。また、滑り、つまづき、踏み外しでバランスを崩すと、腰痛につながることがあります。

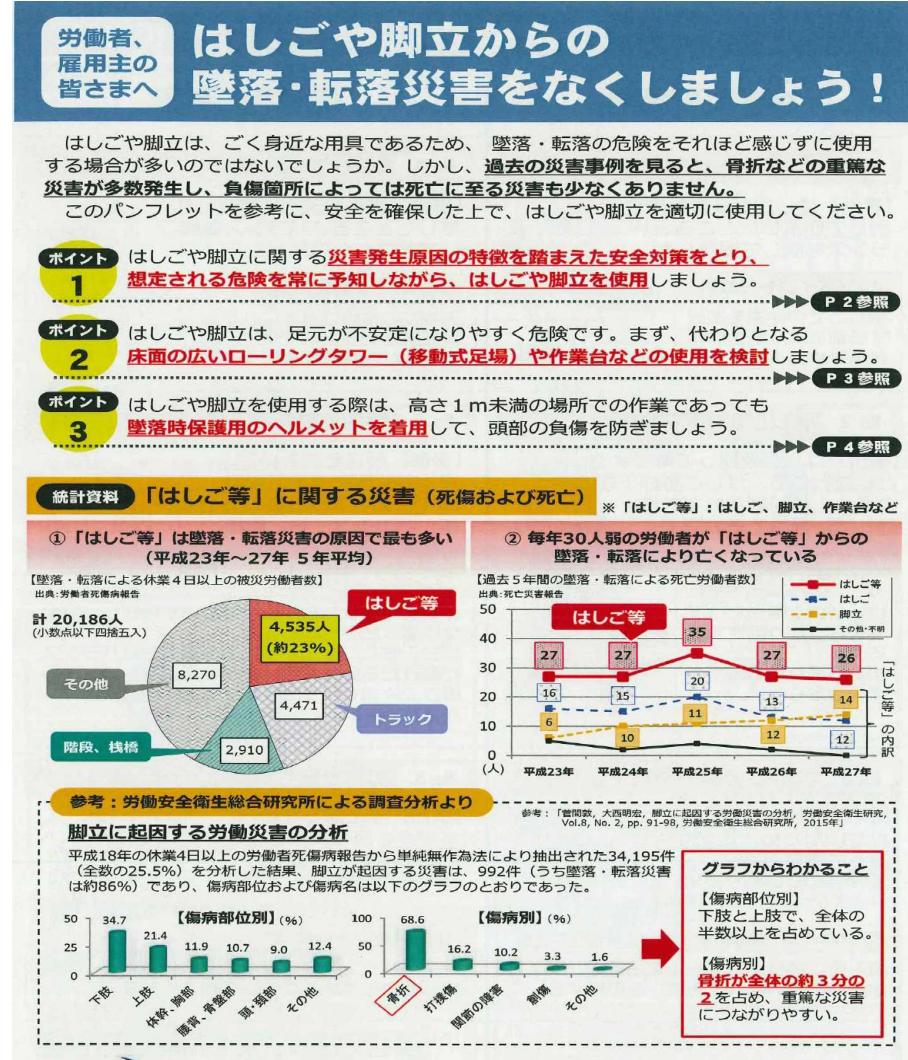
- 台車などの道具を使用するようにしましょう。道具を使用するのが難しい場合は、ひとりで持ち上げず、誰かに手伝ってもらう声をかけましょう。
- 荷物を床面から持ち上げる際は、荷物に近づいて、しゃがんだ状態で抱え、ひざを伸ばして立ち上がるなど、適切な作業姿勢・動作を意識しましょう。
- 無理のない範囲でのストレッチも効果的です。

スペリヤムチャはアカン！吉本芸人の特別動画公開中！

職場での転倒や腰痛は、ちょっとした工夫で予防ができます。吉本興業の人気芸人が楽しく、わかりやすく伝えるスペシャル動画を公開中。相方が怪我をしたら、あのネタはどうなる…？ 気になる方は動画をチェック！

動画はこちから▼

QRコード



プログラムの活動評価①

■事業者に対するアンケート(短期・中期)

昨年1年間のうち、仕事中のけがにより会社を休んだり、退職したりした従業員がいるか

項目	2019年(n=134)	2022年(n=62)	
休んだ人がいる	25	18.7%	10
退職した人がいる	8	6.0%	4
休んだ及び退職した人がいる	1	0.7%	0
いない	96	71.6%	48
無回答	4	3.0%	0

従業員に対して転倒・転落によるけがの予防対策を行っているか

項目	2019年(n=134)	2022年(n=62)	
行っている	77	57.5%	35
行っていない	47	35.1%	27
無回答	10	7.4%	0

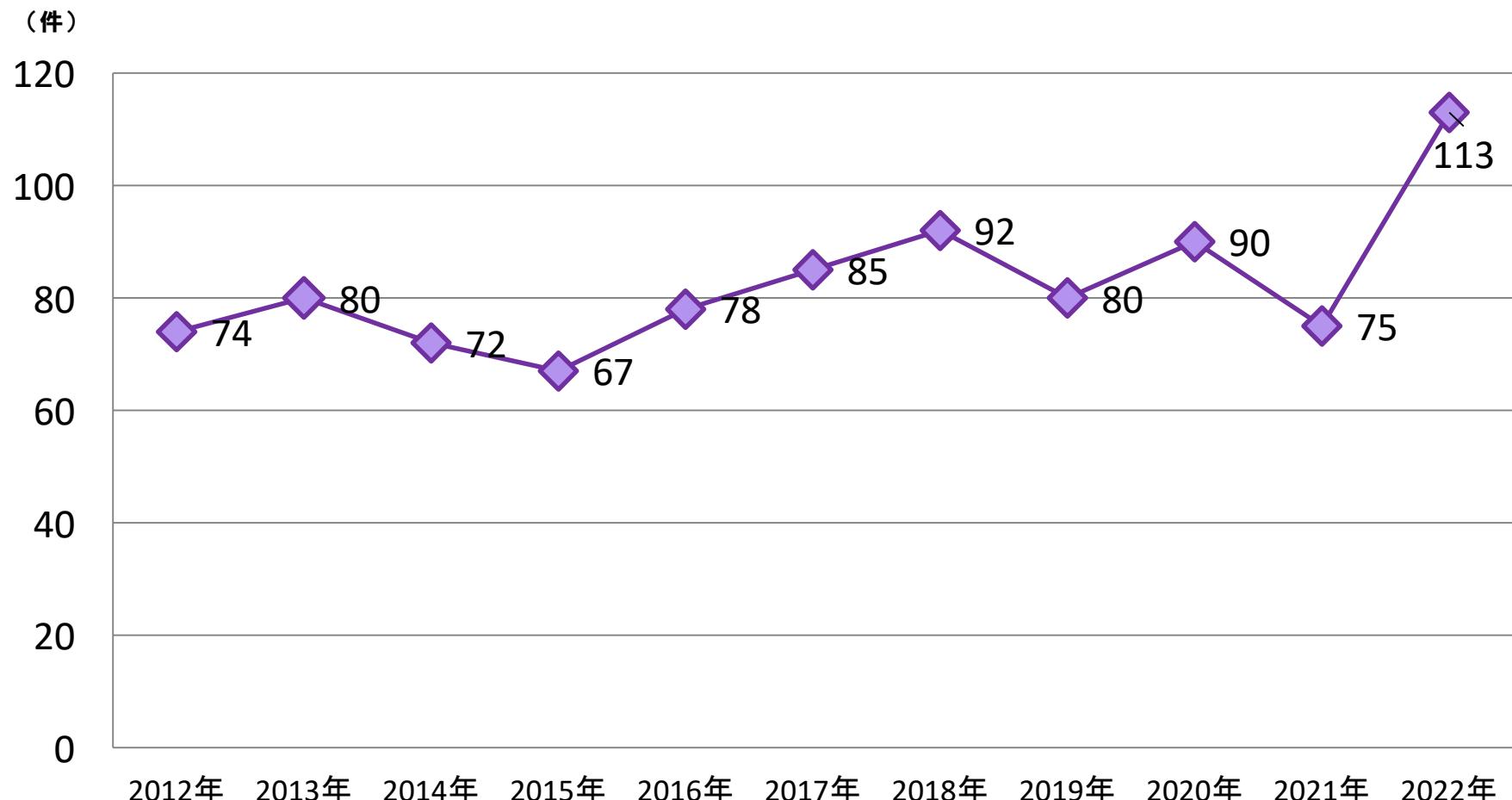
従業員に対して雪道での転倒によるけがの予防対策を行ったか

項目	2019年(n=134)	2022年(n=62)	
行った	66	49.3%	35
行っていない	50	37.3%	27
無回答	18	13.4%	0

出典:企業や事業所等の安全対策に関する調査

プログラムの活動評価②

■図表10 労働災害の発生(休業4日以上)件数(長期)



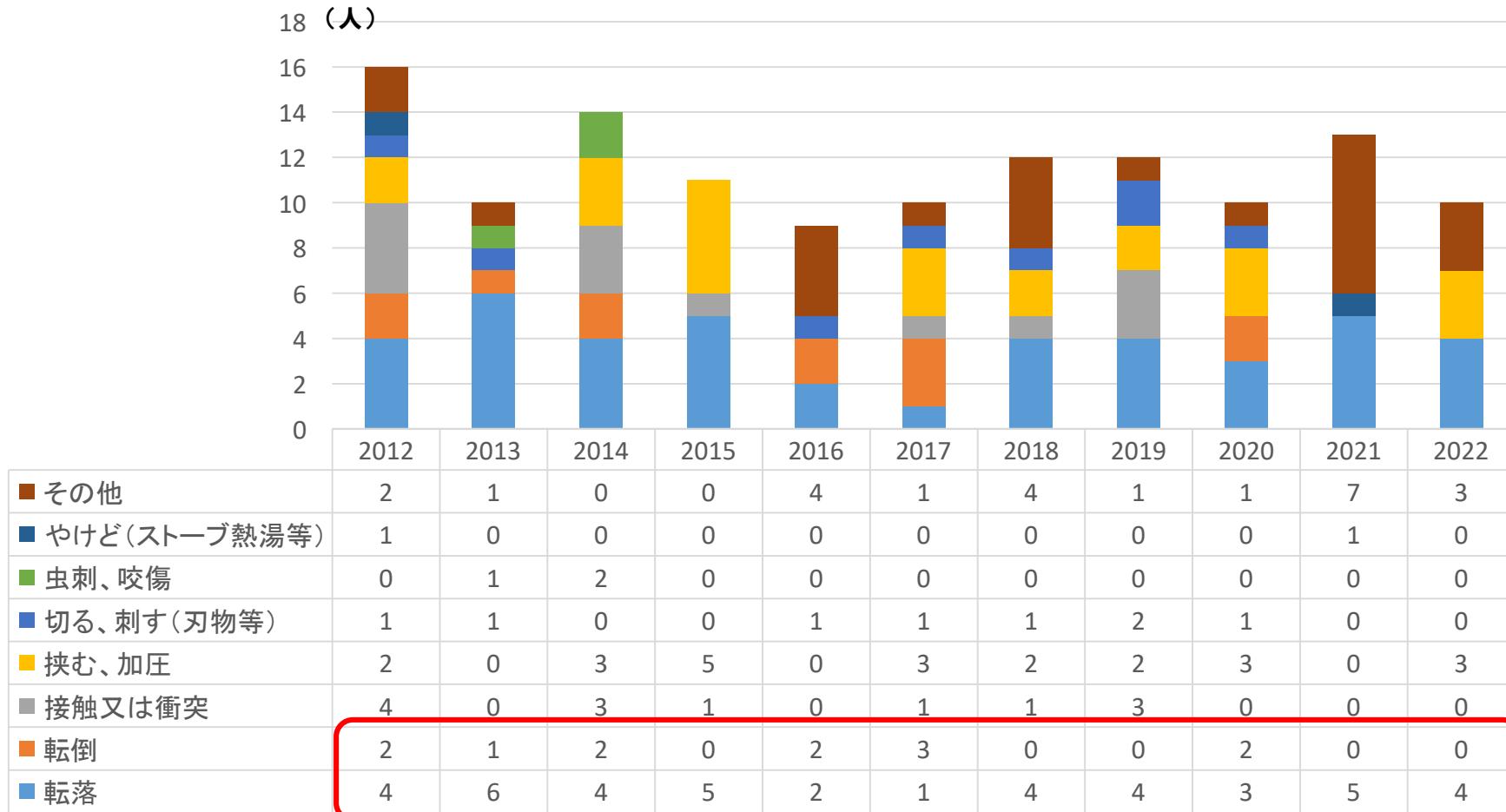
認証②

認証③

プログラムの活動評価③

図表11 労働災害の発生件数(長期)

労働(労働災害)事故種別 受傷経緯 経年比較 【中等症以上】



出典:救急搬送及び中央病院受診データ(2012年～2022年)

新規プロジェクトの開始

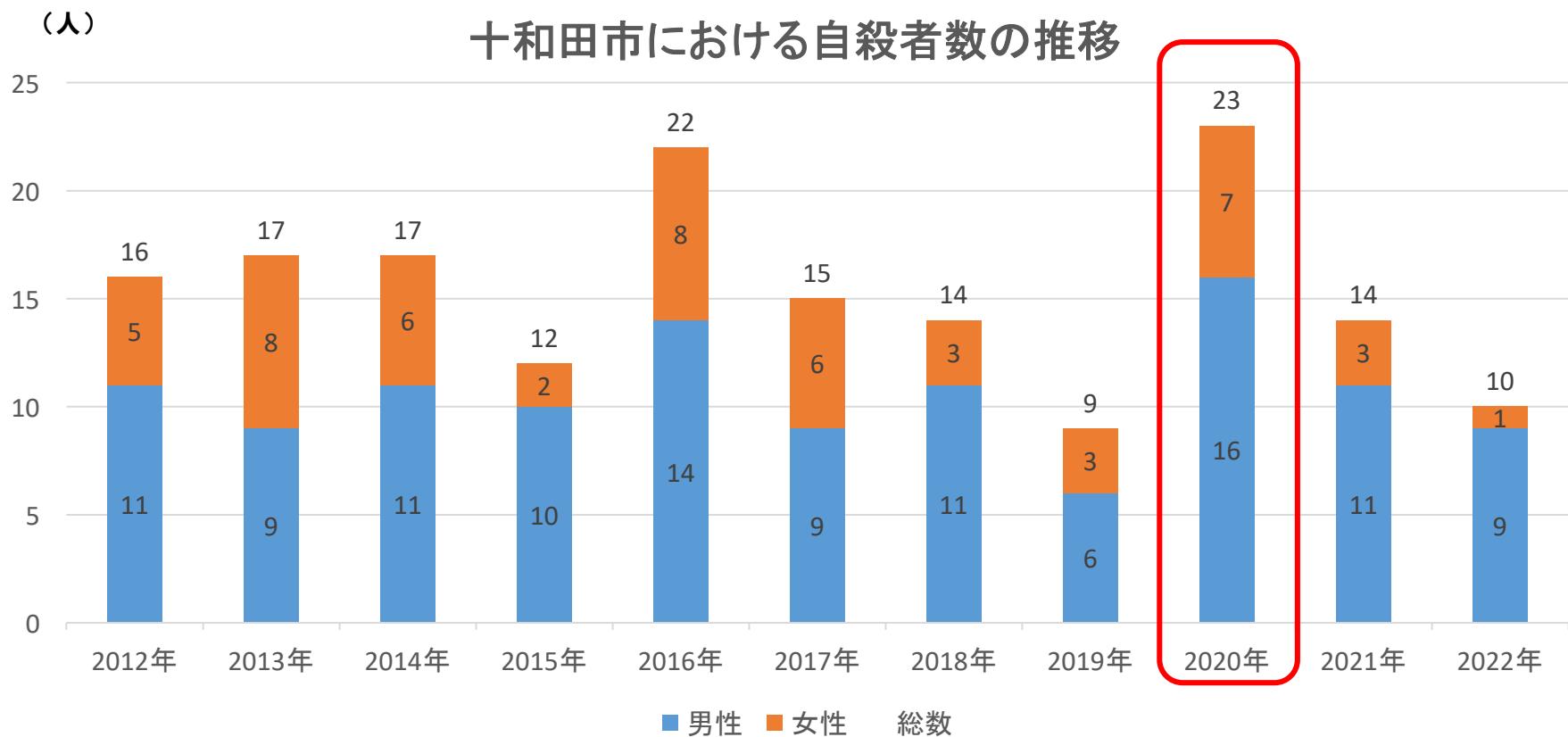
- ・各部会が、その分野にネットワークを築けた。
- ・当部会は、部会員を通じて事業者・事業所にアクセスできる。



- ・各部会が得意分野(ネットワーク)を持ち寄り、協同することで、力を発揮できる。
- ・当部会も労働者の安全対策のために自殺予防対策部会と連携する新規プロジェクトを始めた。

データから見る課題①

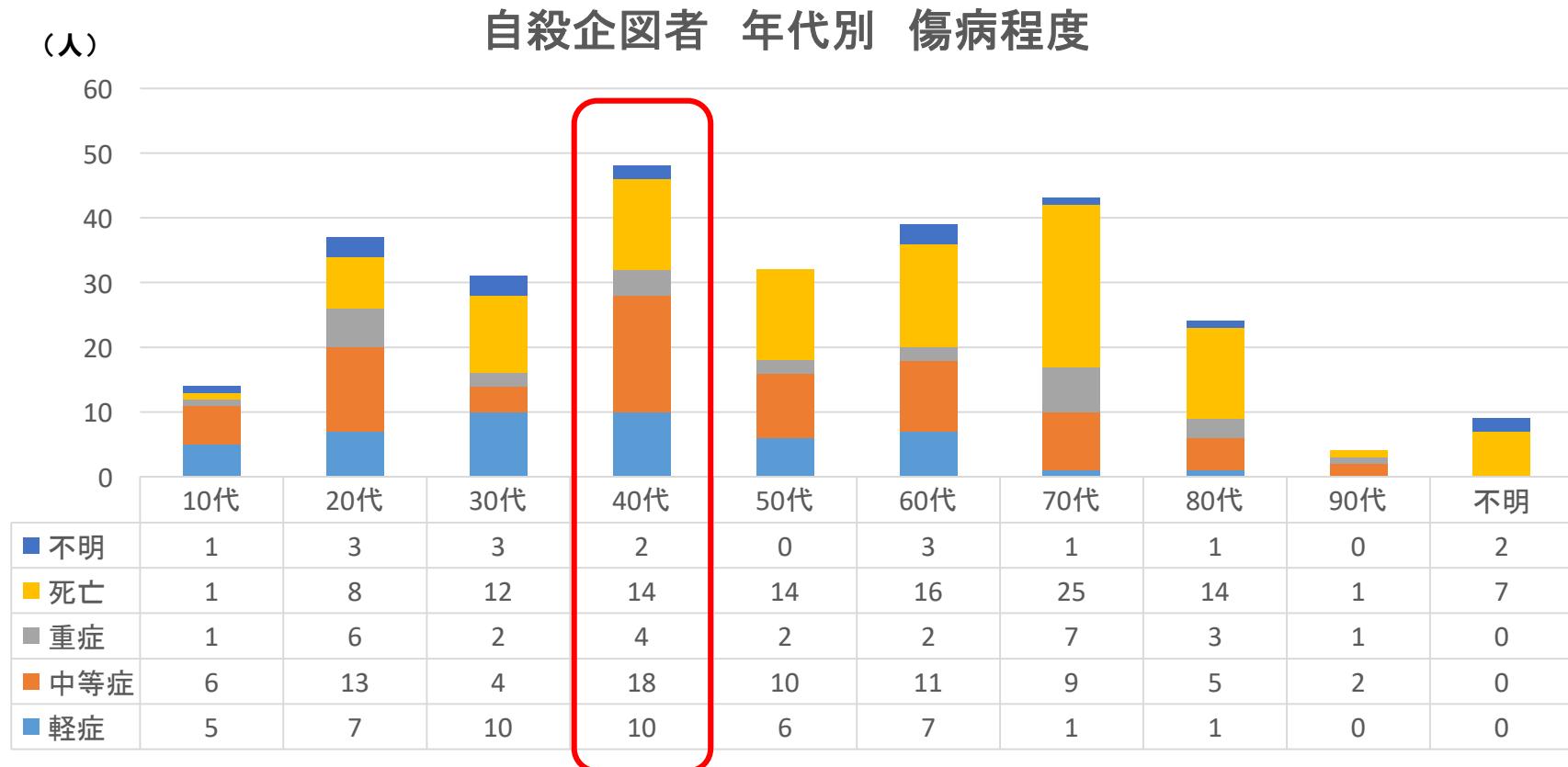
■図表12 コロナ禍の中、自殺者数が増加



出典:厚生労働省 人口動態統計(2012年～2022年)

データから見る課題②

■図表13 働き盛りである40代の自殺企図者数が最も多い



出典:救急搬送及び中央病院受診データ(2012年~2022年)

データから見る課題③

■事業者に対するアンケートで収集していたデータ

昨年1年間のうち、心の健康の不調で仕事を休んだり、退職したりした人がいるか

項目	2019年(n=134人)	2022年(n=62人)		
休んだ人がいる	21	15.7%	7	11.3%
退職した人がいる	6	4.5%	1	1.6%
休んだ及び退職した人がいる	0	0.0%	1	1.6%
いない	91	67.9%	53	85.5%
無回答	16	11.9%	0	0.0%

従業員の心の健康(メンタルヘルス)について不安を感じているか

項目	2019年(n=134人)	2022年(n=62人)		
感じている	50	37.3%	16	25.8%
感じていない	69	51.5%	46	74.2%
無回答	15	11.2%	0	0.0%

出典:企業や事業所等の安全対策に関する調査

課題③に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・県 レベル	市レベル	地域レベル
15～65歳における自殺予防	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートキーパー養成推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域健康教室 ・こころの健康講座 ・ゲートキーパー養成講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・全事業所にステッカーを配布 ・心の相談薬局開設 <p style="background-color: #e0c0ff; border: 1px solid blue; padding: 10px; text-align: center;">対策部会の関わり ステッカー周知活動</p>
	規則・罰則	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺対策基本法 	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺対策計画 	
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺対策推進センターの設置及び運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・こころの相談 ・自殺対策推進本部の設置 	

悩みの相談窓口周知プログラム

課題	心の健康の不調による休職・退職者が一定数いる		
目標	自殺対策部会と連携し、自殺企図者を減らす		
内容等	自殺対策部会と連携して作成した相談窓口先を掲載したステッカーを各職場へ掲示依頼する。		
	【財源】	十和田市	
	【対象】	労働者	
	【活動】	既存の「労務管理セミナー」を活用	
	【人材】	上北労働基準協会、労働基準監督署	
(短期) 認識や知識の変化	【指標】 <ul style="list-style-type: none">心の健康の不調による休職・退職者数の割合自殺企図者数の割合		【測定】 <ul style="list-style-type: none">事業者へのアンケート緊急搬送及び中央病院受診データ
(中期) 態度や行動の変化			
(長期) 状態や状況の変化			

新規プログラムの活動状況①

相談窓口の連絡先を掲載したステッカーの掲示依頼



自殺予防対策部会との合同会議の様子

新規プログラムの活動内容②

セミナーを活用したステッカーの配布

上北労働基準協会が主催する労務管理セミナーの場において、労働者の皆様が抱える問題等の解決の糸口となり、心の不調等を減らす一助になるよう、悩みの相談窓口を周知するステッカーを目につきやすいトイレに貼ってもらう取組内容を説明し、希望者に配布しました。



新規プログラムの活動内容③

賛同事業者へのステッカー配布

ステッカー掲示取組に賛同し、ご協力いただけた事業者へ出向き、ステッカーの贈呈を行いました。マスコミ等に依頼し、取組の周知を図りました。

また、商工会議所で開催する各部会においてステッカーの配布を行いました。



取り組みによる気付き

- 高齢者の受傷者が多くなっており、農業機械による重篤な事故につながっている。
- 全産業において、安全対策への意識を高めていくことが必要である。
- 「事業所等の安全対策に関するアンケート」から、仕事中のけがのほか心の健康の不調（コロナ禍の影響含む）による休職・退職者が一定数いる。

課題

- 毎年、事故、災害の受傷者が発生している状況
- 安全に対する意識が薄くなっている
- 関連性のある他の部会との連携不足

今後の計画

2024年

2025年

2026年

2027年

2028年

①農作業事故防止プログラム

【継続】予防チラシ等による啓発活動

農作業事故防止講習会でのアンケート調査

②職場内の転倒・転落防止プログラム

【継続】予防チラシ等による啓発活動

事業者へのアンケート調査

③悩みの相談窓口周知プログラム

【新規】相談窓口の連絡先を掲載したステッカーの掲示依頼

悩みの相談チラシ等による啓発活動



ご清聴ありがとうございました

今日も無事でいてほしい



十和田市セーフコミュニティ推進マーク
「十」十和田市の安全な街並み、
「和」美しい郷土・十和田湖と紅葉、
「田」人々の協働・交流・絆を表現